

國學院大學學術情報リポジトリ

曳きものの祭礼とからくり人形：
尾張地域のからくり人形師を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉野, 亨 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002023

曳きもの祭礼とからくり人形

―尾張地域のからくり人形師を中心に―

吉野 亨

要旨

本論文では、愛知県における曳きもの祭礼とからくり人形の地域的展開に注目し、からくり人形の製作者であるからくり人形師に焦点を当て考察を試みた。既に山崎構成『曳山の人形戯』、千田靖子『図説からくり人形の世界』は、山車からくりの件数において全国でも愛知県が突出していることに注目し、江戸時代の上方（大阪）で勃興した「竹田機巧座」の興行が、愛知の山車からくりに影響を与えたと示唆した。そこで本稿では、からくり人形師に注目し、山崎・千田が調べた人形師について編年順にまとめ、分析を試みた。考察の結果、名古屋若宮八幡社と東照宮における曳きもの祭礼のからくり人形の受容と、これに伴う形でのからくり人形師の名古屋を拠点とした活動の展開が、尾張地域におけるからくり人形の地域的発展の拠点として考えられる可能性を示唆した。また、山崎・千田が示唆した「竹田機巧座」の山車からくりへの影響については、山田和人の論文にて動態などの検証が行われていることを提示した。尚、これらの考察から全国における曳きもの祭礼におけるからくり人形の地域展開を考察する際、からくり人形師の祭礼への関わり方を視点とする必要を示唆した。

キーワード

曳きもの祭礼、愛知県、からくり人形、からくり人形師、尾張地域

はじめに

全国の祭礼において、山車や曳山、鉦と称される曳きものが出る事例がある。代表的な事例としては、京都八坂神社祇園祭における鉦・曳山、埼玉秩父神社秩父夜祭りにおける山車、岸和田のだんじり等を挙げることが出来る。このような祭礼において、からくり人形を載せた曳きものを曳き、町の辻などで人形戯を演じる事例がある。この曳きものからくり人形を載せる形式は、全国で愛知県が群を抜いて多い^①。

これら曳きものに載るからくり人形については、既に山崎構成、千田靖子によって、個別事例の収集と報告が行われている。

山崎構成『曳山の人形戯』は、昭和五十年当時の「曳山人形戯」の事例について調査を行い、その現状を把握し人形戯の歴史や展開について考察を試みている。山崎は「現状篇」と「研究篇」に分け、「現状篇」では昭和五十

年当時の全国における「曳山人形戯」の事例についてからくり人形の構造等を報告、「研究篇」ではからくり人形の淵源や曳山人形戯の展開についての考察を行っている。

又、千田靖子も『図説からくり人形の世界』で、全国におけるからくり人形の載る曳きもの祭礼の事例報告を行っている。^②山崎と同じく全国の祭礼について事例報告しており、平成十七年当時のからくり人形の現状を把握することが出来る。加え、付録として載る「からくり人形師一覧」には、個々のからくり人形の作成年代・人形作者等がまとめられており、曳きもの祭礼におけるからくり人形の分布や年代を類推するには必要な成果と言える。^③

さて、千田は『図説からくり人形の世界』以前に、愛知県の山車祭りのからくりに注目し『からくり人形の宝庫―愛知の祭りを訪ねて―』としてまとめている。^④山崎もまた愛知県下におけるからくり人形の出る山車祭りの多さに注目し、考察を試みている。山崎は愛知県が大阪に近く、江戸時代上方で

好評を博していた「竹田機巧座」の存在に注目し、名古屋における上方のからくり座興行と、曳山人形への影響について分析を試みている。その結論として、「機巧座が直接曳山からくりに関連した文献上の証拠となるものは発見できなかった」としつつも、「竹田機巧座にコッピールライトが存在しない」故に「多くの模倣者の発生を余儀なくしている」として、「竹田機巧座」が曳山人形に暗に影響を与えている可能性を示唆している^⑥。

ここで出てくる「竹田機巧座」とは、上方（大阪）で興行を行っていたからくり人形を用いた演劇を見せる一団の事である^⑦。この「竹田機巧座」の名古屋における興行と曳きもの祭礼のからくり人形の歴史的展開の影響について、千田も山崎の著書を参考文献として挙げ、暗に支持していることが窺える。

このように、「両者に共通する視点は、江戸時代における名古屋周辺での「竹田機巧座」の興行と、曳きもの祭礼のからくり人形との関係性である。山崎・千田は「竹田機巧座」の影響が、山車祭りのからくりの愛知県での突出した展開につながっていると推察している。

では、両氏が考えるように「竹田機巧座」の興行が、愛知県下における曳きもの祭礼のからくり人形の展開に影響を及ぼしたと言えるのであろうか。

本稿では、愛知県における曳きもの祭礼とからくり人形の分布に偏在性があるという先行研究の指摘動向から一歩進め、各山車に載るからくり人形の製作者、からくり人形師「竹田機巧座」の影響についての示唆に焦点を当ててみることにする。

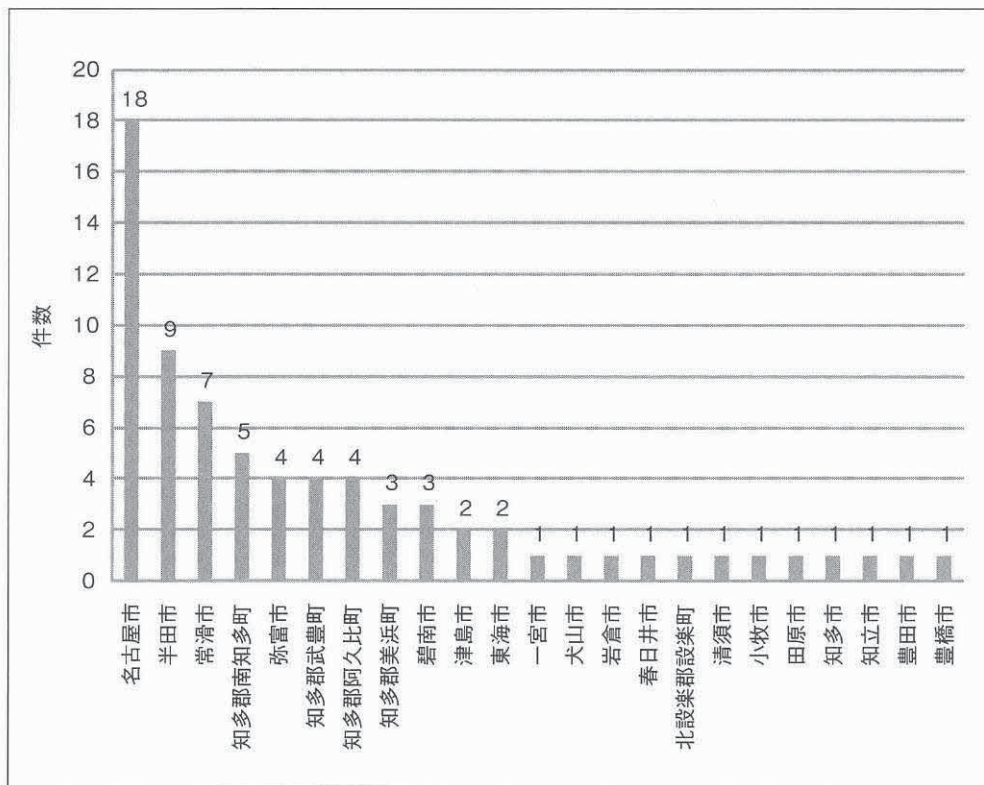


表1 愛知県における市町村別からくり山車の祭り

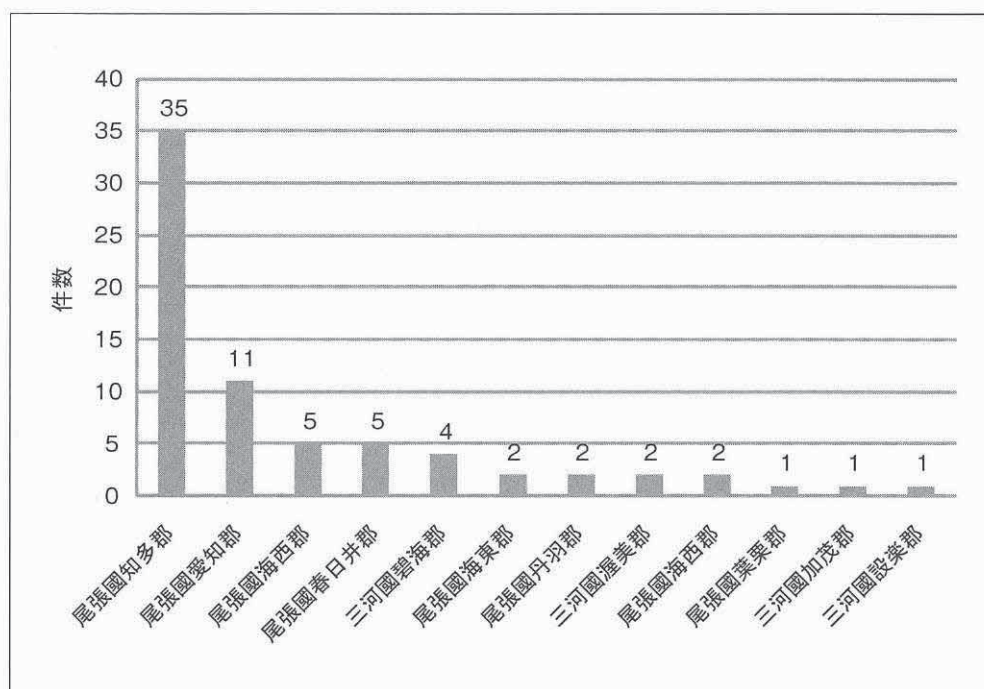


表2 愛知県における旧国郡別からくり山車の祭り

一、曳きもの祭礼とからくり人形―その偏在性―

先行研究である、『曳山の人形戯』には昭和五十年当時の曳山人形戯の数を提示している。これによれば「全国五十地方、曳山総数一八一基、人形総数四二二体」あると報告されている⁽⁸⁾。また千田が示したデータでは、平成九年における愛知県におけるからくり人形の載る曳きものは百四十九輛として

いる。

(表1)は、神社本庁が出した『平成「祭」データ』から愛知県における山車祭りのからくり人形の有無を抽出、民俗資料調査及び先行研究等を用いて補填しグラフ化したものである⁽¹⁰⁾。また、(表2)は旧国郡別でデータを分類しグラフ化したものである。愛知県におけるからくり山車の出る祭りの総数は七十三、その多くが現在の名古屋市、次いで半田市に集中していることが分かる。また旧国郡で分類しなおした場合、尾張國知多郡、次いで尾張國愛知郡に集中していることが分かる。

何故からくりの載る曳きものが、名古屋市・半田市に集中しているのか。このことを考えるには、まず現在の町村制と旧国郡の分類を比較すると、その理由が窺える。現在の名古屋市は旧国郡の尾張國愛知郡・知多郡・春日井郡を内包していることから、必然的に名古屋市に集中する結果となるわけである。このことは半田市にも言える。半田市は旧国郡の尾張國知多郡を内包している。要は、名古屋市と半田市がからくり山車の多い知多郡を内包しあう形になっているのである。このことから、尾張國知多郡、愛知郡を中心とした尾張地域を中心に、曳きもの祭礼におけるからくり人形が展開を見せていた事が窺える。この点に留意しつつ、からくり人形師について整理してゆきたい。

二、竹田近江と山本飛騨掾―名古屋東照宮祭との関わり―

すでに、山崎・千田により愛知県下におけるからくり山車の事例が収集され、からくり人形の構造及び来歴・製作者のデータがそろっている⁽¹¹⁾。ここでは、山崎・千田の成果をまとめ、表として提示する。(表3)は、山崎・千田が調査収集した人形師のデータを集め、年代順に並べ替えたものである。人形師の記録についての記述が在る場合はそれを備考欄に示した。

人形師として初めに登場するのは、名古屋の若宮八幡社の若宮祭りの福祿

元号	西暦	からくり人形師	祭礼	山車	人形名	備考	出典
延宝4年	1676年	山伏多門院	名古屋 若宮祭り	福祿寿車	福祿寿	福祿寿の人形の頭部分内に、「延宝四年丙辰六月吉祥町内安全願人左門院」とあり。	『曳山の人形戯』
宝永4年	1707年	竹田近江	名古屋東照宮	小鍛冶車（京町）	三条小鍛冶が狐面	伝竹田近江	『図説からくり人形の世界』
宝永4年	1707年	竹田近江	名古屋東照宮	唐子車（宮町）	唐子が太鼓を打つ	伝竹田近江	『図説からくり人形の世界』
享保18年	1733年	山本飛騨掾	名古屋東照宮	林和靖（伝馬町）※現存せず	鶴追いの唐子	伝山本飛騨掾	『図説からくり人形の世界』
享保19年	1734年	玉屋庄兵衛（初代）	名古屋東照宮	林和靖（伝馬町）※現存せず	林和靖		『図説からくり人形の世界』
寛保2年	1742年	矢場町甚四郎	犬山市 犬山祭	国香欄	文殊・唐子・獅子		『図説からくり人形の世界』
宝暦11年	1761年	竹田藤吉（鷹屋藤吉）	名古屋市 若宮祭り	福祿寿車	蓮台で倒立の唐子	蓮台に「宝暦拾壹辛巳天六月吉日」「細工人 葛屋藤吉」の墨書有り。	『曳山の人形戯』
明和4年	1767年	竹田寿三郎	名古屋 若宮祭り	福祿寿車	蓮台で倒立の唐子	言い伝えでは、鉦叩きの唐子を太鼓叩きと倒立の唐子の造り替えたと言われている。	『曳山の人形戯』
安永3年	1774年	竹田藤吉（鷹屋藤吉）	犬山市 犬山祭	威英（本町）	蓮台で倒立の唐子	安永3年（1774）	『図説からくり人形の世界』
安永3年	1774年	竹田藤吉（鷹屋藤吉）	犬山市 犬山祭	真先（魚屋町）	乱杭渡り唐子	安永3年（1774）の作 （現在の人形は9代目玉屋庄兵衛の平成9年の作）	『図説からくり人形の世界』
安永4年	1775年	文吉離三（名古屋文吉二三坊）	犬山市 犬山祭	應合子（下本町）	應合子	安永4年（1775）作	『図説からくり人形の世界』
安永5年	1776年	竹田藤吉（鷹屋藤吉）	犬山市 犬山祭	西王母（中本町）	西王母、綾渡りする唐子	安永5年（1776）の作	『図説からくり人形の世界』
天明4年	1784年	鬼頭二三延忠	名古屋 若宮祭り	福祿寿車	蓮台で倒立の唐子	倒立の唐子の腹に「天明四甲辰年鬼頭二三延忠直之」との墨書あり。	『曳山の人形戯』
天明5年	1785年	隠居吟笑	岩倉市 岩倉祇園祭	杉山車（下本町）	采振り神子と菅丞相肩車・蓮台倒立唐子	采振り・神子と菅丞相は土地の人の作と言う。肩車・蓮台倒立唐子は天明5年（1785）隠居吟笑の作と伝えられる。	『図説からくり人形の世界』
天明5年	1786年	竹田藤吉（鷹屋藤吉）	常滑市 大野祭	唐子車（高須賀町）	唐子	町内保存の「弘化丁未四歳五月吉日 永代記録」に「名古屋藤吉謝礼人形作人」との記述あり。	『曳山の人形戯』
寛政2年	1790年	竹田藤吉（鷹屋藤吉）	美浜町 河和天神社祭礼	北車（北組）	上山に唐子遊び	蓮台の一本柱の下部に、「寛政庚戌六月吉日 葛屋藤吉作」の墨書が見える。	『曳山の人形戯』
寛政8年	1796年	文吉離三（名古屋文吉二三坊）	戸田市 戸田祭り（戸田八幡神社）	一の組	押し唐子 二休・倒立唐子		『曳山の人形戯』
寛政8年	1796年	文吉離三（名古屋文吉二三坊）	戸田市 戸田祭り（天満宮）	二ノ割	唐子逆立遊び		『曳山の人形戯』
寛政8年	1796年	文吉離三（名古屋文吉二三坊）	戸田市 戸田祭り（白山車）	白山車（四ノ割）	肩車から紐につり下がる唐子	人形箱の蓋裏に、「寛政第八丙辰秋八月吉日、神事車備人形、名護屋俗名文吉二三坊細工、戸田村四之組什物」とあり。	『曳山の人形戯』
文化8年	1811年	玉屋庄兵衛（2代目）	小牧市	中町	文字書き人形	記録のみ	『図説からくり人形の世界』
文政3年	1820年	玉屋庄兵衛（2代目）	名古屋市 有松天満宮秋季大祭	布袋車（東町）	布袋人形	玉庄（玉屋庄兵衛）作と言われる。	『図説からくり人形の世界』
文政7年	1824年	玉屋庄兵衛（2代目）	名古屋市 有松天満宮秋季大祭	布袋車（東町）	采振り人形	玉庄（玉屋庄兵衛）作と言われる。	『図説からくり人形の世界』
文政7年	1824年	隅田仁兵衛（栄重）	一宮市 石刀祭	山之小路車（山之小路）	倒立の唐子・綾棒さがり		『図説からくり人形の世界』
文政10年	1827年	玉屋庄兵衛（5代目）	犬山市 犬山祭	梅梢戯（外町）	倒立の唐子	人形納箱の側面に「文政十年亥八月吉日 人形細工人名古屋古渡新町玉屋正兵衛五代目」との墨書有り。	『曳山の人形戯』
文政12年	1829年	隅田仁兵衛（栄重）	半田市 半田祭り	唐子車（北組）	太鼓打ちぶら下がり唐子		『図説からくり人形の世界』
文政12年	1829年	隅田仁兵衛（栄重）	小牧市 小牧秋葉祭	聖王車	大将人形		『図説からくり人形の世界』
天保2年	1831年	隅田仁兵衛（栄重）	名古屋市東照宮祭礼	湯取神子車	※現存せず	※現存せず	『図説からくり人形の世界』
天保6年	1835年	住田仁兵衛 藤原真守	名古屋市 牛頭天皇祭	牛頭天王車	豊太閤		『図説からくり人形の世界』
天保6年	1835年	玉屋庄兵衛（5代目）	常滑市 大野祭	紅葉車（橘橋町）	采振り人形・倒立の唐子		『図説からくり人形の世界』
天保7年	1836年	隅田仁兵衛（栄重）	清須市 枇杷島祭	王義車			『図説からくり人形の世界』
天保12年	1841年	曙仙人	名古屋市中村区神明社祭	唐子車（内屋敷）	梅の木倒立唐子	梅の木倒立唐子の蓮台裏に、「天保十二年辛丑奉 祭 仙人作之」と墨書あり。	『曳山の人形戯』
天保14年	1843年	住田仁兵衛 藤原真守	半田市 下半田祭	唐子車（北組）	三番叟		『図説からくり人形の世界』
弘化2年	1845年	竹田 源吉	半田市 亀崎潮干祭	青龍車（石橋組）	前棚の布さらし	人形に記録あり。	『曳山の人形戯』
弘化2年	1845年	竹田 源吉	半田市 亀崎潮干祭	力神車（中切組）	狸々		『曳山の人形戯』
弘化2年	1845年	竹田 源吉	半田市 亀崎潮干祭	花王車（西組）	神官		『曳山の人形戯』
弘化3年 - 4年	1846 - 1847年	住田仁兵衛 藤原真守	清須市 枇杷島祭	頼朝車（問屋町）	源頼朝・静御前		『図説からくり人形の世界』
弘化2年	1846年	竹田 源吉	東海市 横須賀祭	本町組	采振り・瓶割り唐子		『図説からくり人形の世界』
弘化4年	1847年	住田仁兵衛 藤原真守	津島市 津島祭	中町車（神守町）	林和靖		『図説からくり人形の世界』
嘉永元年	1848年	住田仁兵衛 藤原真守	常滑市 大野祭	梅栄車（十王町）	渡唐天神・陵王人形		『図説からくり人形の世界』
嘉永6年	1853年	玉屋庄兵衛（5代目）	東海市 横須賀祭	八公車（公通組）	倒立の唐子		『図説からくり人形の世界』
安政年間	1854 - 1856	玉屋庄兵衛（5代目）	東海市 横須賀祭	北町組	采振り・倒立の唐子		『図説からくり人形の世界』
安政2年	1855年	玉屋庄兵衛（5代目）	名古屋市 牛頭天皇祭	牛頭天王車	采振り人形		『図説からくり人形の世界』
安政3年	1856年	玉屋庄兵衛（5代目）	小牧市 小牧秋葉祭	聖王車（横町）	髻振り人形・姉弟唐子	人形箱の箱書に「安政三年辰七月 細工人 五代目玉屋庄兵衛」と墨書有り。	『図説からくり人形の世界』
安政4年	1857年	竹田 源吉	名古屋市中村区神明社祭	紅葉狩車	維茂・東料姫・従者・采振り		『図説からくり人形の世界』
安政5年	1858年	竹田 源吉	美浜町 野間神社上野間祭	日之出車	源義経・東雲姫・監物太郎と馬	町方資料の内『御車再造帳』に「安政五年八月吉日」と記し所に「人形買物覚、門前町、竹田源吉、三十六両」との記載有り。	『曳山の人形戯』

表3 からくり人形師一覧

寿を作成したとされる、山伏多門院である。頭部のみが現存しその内部に墨書で名が記されている⁽¹²⁾。この人物についての詳細は不明であるし、この人物がからくり人形本体も作成したのかは不明である。山崎・千田が「竹田機巧座」の名古屋地域における興行とからくり人形の関係を示唆する中で、「竹田機巧座」の興行以後すでに尾張國愛知郡でからくり人形が曳きものに載せられていたとすれば、「竹田機巧座」の何らかの影響を考へることも不可能ではないだろう。加え「竹田機巧座」の竹田近江が宝永四年（一七〇七）に名古屋の東照宮祭に曳き出される小鍛冶車・唐子車のからくり人形を作っていたとされる伝承は見逃してはならない点である⁽¹³⁾。

さらに、竹田近江と並んでからくりの名人と呼ばれた京都の山本飛騨掾も、名古屋の東照宮祭に曳き出されていた林和靖^{りんなせい}のからくりを手掛けていたとされる。この伝承と合わせて考えると、東照宮祭における曳きもの祭礼とからくり人形による人形戯の展開は大阪・京都のからくり人形師の存在が起点となっていたことが推測せられる。

では、若宮八幡社・東照宮の曳きもの祭礼におけるからくり人形の登場以後、曳きもの祭礼とからくり人形は如何様な展開を見せていったのか。

三、玉屋庄兵衛と竹田藤吉―からくり人形の展開―

時代順に人形師を見てゆくと、玉屋庄兵衛の名が現われる。現在九代目を数える玉屋庄兵衛は、その初代が東照宮祭の林和靖のからくりの指導の為に京都から現在の名古屋へ赴き、後に名古屋玉屋町へと居を構え活動したとされている⁽¹⁵⁾。これ以降、玉屋庄兵衛は名古屋を中心に活動するからくり人形師となる。通称「玉庄」は、二代目が文化八年（一八一）小牧市中町の文字書きのからくり人形、文政三年（一八二〇）に名古屋市有松天満宮秋季大祭の布袋車に載る采振り人形を、同じく文政七年（一八二四）に布袋車の布袋人形を作成するなど、名古屋を拠点として曳きもの祭礼におけるからくり人

形の展開に関わっている。

また、犬山市犬山祭に出る国香欄^{こくかうらん}のからくり人形を作製した矢場町甚四郎なる人物も、その名から名古屋矢場町に拠点を置くからくり人形師である可能性が窺える。

玉屋庄兵衛や矢場町甚四郎の登場以後、名古屋を拠点として活動したからくり人形師が頻出する。

まず、竹田藤吉（鳶屋藤吉）である。竹田の姓から、竹田系のからくり人形師と推察されるが、「名古屋藤吉」との記録が残っていることから名古屋を中心に活動をしていたことが窺える。ただし、現在の犬山市（尾張國丹羽郡）や美浜町常滑市（尾張國知多郡）にも竹田藤吉作のからくり人形が伝来しており、曳きもの祭礼におけるからくり人形が名古屋を中心として広まりを見せていたことが考えられる。又、竹田藤吉と同時代に活躍した文吉離三（名古屋文吉二三坊）も名古屋を中心に活動し、犬山祭のからくり人形をはじめ、戸田市戸田八幡神社の戸田祭のからくり人形も手掛けていた。

これまでの経緯から、名古屋の若宮祭・東照宮祭におけるからくり人形の登場が起点となり、からくり人形師が活動してゆく下地―からくり人形の需要と供給の合致―が尾張名古屋に育まれ、その後の地域的展開の起点となったと推察される。残念ながら、からくり人形師たちの正確な来歴や師弟関係は分からない。ただ、名古屋を拠点として活動し、竹田姓を名乗りからくり人形を製作する竹田藤吉や江戸末期に活躍する竹田源吉は、山崎・千田が示唆するような「竹田機巧座」の影響を窺わせる人物たちと指摘することも可能であろう。

加えて言えば、近年「竹田機巧座」と曳きもの祭礼におけるからくり人形の関係を示唆する研究が公にされた。山田和人「竹田からくり「傀儡師」について―フィールドと文学史の接点⁽¹⁶⁾」「田中組「傀儡師」とそのからくり構造⁽¹⁷⁾」「田中組「傀儡師」とそのからくり構造 その二⁽¹⁸⁾」において、愛知県半田市亀崎の田中組神楽庫にあるからくり人形「傀儡師」と、竹田からくりの一

つである「傀儡師」が「竹田からくりのそれとほぼ同じ構造と動態をもったからくり」として、位置づけられることが提示されている。この田中組に伝来する「傀儡師」はその製作者や年代が不明であり、山崎も竹田からくりと近似しているとの指摘をしているのみであった。

このことから、何らかの形で竹田からくりの「傀儡師」と同名・同様のからくり人形が作成され、田中組の「傀儡師」の製作者は竹田からくりの技術に詳しい竹田系のからくり師であったことが容易に想定されるのである。以上の研究からも、山崎・千田が示唆した「竹田機巧座」の影響は、「傀儡師」と言う竹田からくりと同形式のからくり人形があることで、さらに現実味を帯びたものとなったと言える。

四、まとめに

愛知県における曳きもの祭礼とからくり人形について、特にからくり人形を作成したからくり人形師に注目し考察を試みた。

山崎や千田が示唆したように、尾張地域におけるからくり人形と曳きもの祭礼の地域的展開には、「竹田機巧座」の興行が影響している可能性がある。これは名古屋東照宮における曳きものに載るからくり人形が竹田近江の作と伝えられていること、田中組「傀儡師」の存在からも推察しえることである。ただし、尾張地域における曳きもの祭礼とからくり人形の地域的展開を考えるなら、両者が示唆する「竹田機巧座」の及ぼした影響に加え、名古屋若宮八幡社・東照宮の曳きもの祭礼におけるからくり人形の受容が、尾張地域を中心とした地域展開の起点として考えられるのではないか。この若宮八幡社・東照宮の祭礼におけるからくり人形の受容を初端とし、からくり人形師が名古屋を拠点に活動を行うことで、尾張名古屋を中心とした周辺地域における曳きもの祭礼とからくり人形の受容と展開へつながっていったと推察される。このことから、尾張地域における曳きもの祭礼におけるからくり人形の展開

には、尾張地域特に名古屋を中心として活動を行っていたからくり人形師の存在が、大きな要素として存在していたことが指摘できるのである。

また、今回の取り上げた尾張地域における曳きもの祭礼とからくり人形の展開は、全国に分布する曳きもの祭礼とからくり人形の事例の縮図と言えるのではないだろうか。まず尾張地域においては、名古屋を拠点としたからくり人形師の活動が、周辺地域の祭礼にも影響を及ぼしていたことが推察される。ここから、からくり人形の地域的展開には、からくり人形師の活動が、展開の起点となっていたことが窺える。このことは他の地域における展開についても、同様の視点から考察を試みることは出来るのではないだろうか。

全国の曳きもの祭礼とからくり人形の地域的展開を考える上での若干の視点を提示し本稿を終えたい。

註

- (1) 『神社祭礼に見るモノと心』グループ山車・屋台特集』巻末付図第十七図「からくりによる演技・特殊な動作がある」を参照した。
- (2) 山崎構成『曳山の人形戯』東洋出版 昭和五十六年
- (3) 千田靖子は『図説からくり人形の世界』法政大学出版局 平成十七年
- (4) 前掲註(3) 四百六十四～四百八十一頁
- (5) 千田靖子「からくり人形の宝庫―愛知の祭りを訪ねて―」 中日出版 平成三年
- (6) 前掲註(2)「第八章 竹田機巧座と曳山機巧戯」で山崎は、愛知県下が突出して「曳山機巧戯」が多いことを疑問とし、「最も気にかかる焦点は上方の機巧座の名古屋興行である」として、竹田機巧座と曳山機巧戯の関係について考察を試みている。
- (7) 立川昭二「からくり」法政大学出版局 昭和二十四年
- (8) 前掲註(2) 三頁四行目～五行目
- (9) 前掲註(5)
- (10) このデータ作成は國學院大學伝統文化リサーチセンターにおける作業の一環で、愛知県の曳きものデータベースを作成したもののからデータを抽出した。このデータ作成の前任者である大畑孝子氏には、データの使用を御許可していただいたこ

とについて、謝意を表する。

- (11) 前掲註(2) 四十二～四十四頁及び前掲(3)の一覧表をデータ化し、記銘などの位置が判明しているものに限り備考欄にデータと出典を加え整えた。
- (12) 前掲註(2) 百九十三～百九十四頁
- (13) 前掲註(3) 一覧表「竹田近江」の項
- (14) 前掲註(3) 一覧表「山本飛騨掾」の項
- (15) 前掲註(3) 一覧表「玉屋庄兵衛」の項
- (16) 山田和人「竹田からくり「傀儡師」について―フィールドと文学史の接点―」『歌舞伎研究と批評』十二号 歌舞伎学会 平成五年)
- (17) 山田和人「田中組「傀儡師」とそのからくり構造」『同志社国文学』四十号 同志社大学国文学会 平成六年)
- (18) 山田和人「田中組「傀儡師」とそのからくり構造 その二」『同志社国文学』四十四号 同志社大学国文学会 平成八年)